

吉本作次 絵画の道行き  
YOSHIMOTO Sakuji: Pictorial Pilgrimage

4月6日[土]~6月9日[日]  
Apr. 6 [Sat.] - Jun. 9 [Sun.]

画家・吉本作次の約40年にわたる画業を網羅する初めての展覧会です。1980年代、国際的な美術の動向でもある「ニュー・ペインティング」の流れに乗り、吉本作次は名古屋でデビューを果たしました。その後、ルネサンス以降のヨーロッパおよび中国の絵画から主題や構図、筆法などを貪欲に学び、現在も新たな表現を探究しつづけています。本展では、長らく展示の機会に恵まれなかった初期作品を含む絵画とドローイング約200点を紹介します。日本の現代美術における絵画の展開を語る上で欠かせない画家の、独自の「道行き」をお楽しみください。



吉本作次(田園の宴会)2008年

生誕130年記念  
北川民次展—メキシコから日本へ  
Kitagawa Tamiji Retrospective: From Mexico to Japan

6月29日[土]~9月8日[日]  
Jun. 29 [Sat.] - Sep. 8 [Sun.]

北川民次(1894-1989)の約30年ぶりの大規模な回顧展です。1920-30年代のメキシコで画家・美術教育者として活動した北川民次。日本へ帰国後は、東京や愛知を拠点に洋画壇で活躍し、子どもの美術教育や壁画制作にも挑みました。本展では、彼がメキシコ時代に交流した作家や美術運動との関わりも視野に入れながら、北川がメキシコで学び日本へ帰国後も大事に持ち続けたものを再考します。約180点の作品と資料によって、洋画家・壁画家・絵本制作者・美術教育者など多彩な側面をもつ作家の実像に迫る展覧会です。



北川民次(トラルバム聖国のお祭り)1930年  
油彩・キャンバス、名古屋市美術館蔵

民藝 MINGEI  
—美は暮らしのなかにある  
MINGEI: The Beauty of Everyday Things

10月5日[土]~12月22日[日]  
Oct. 5 [Sat.] - Dec. 22 [Sun.]

日々の暮らしで使われる器、衣類、道具などに美を見出し、素材や作り手に思いを寄せる。約100年前に思想家・柳宗悦が唱えた民衆の工芸「民藝」のコンセプトは、今も私たちの日常を心豊かなものしてくれます。本展では美しい民藝の品々約150件を展示します。また、今に続く民藝の産地の作り手の仕事や、民藝を取り入れた現代のライフスタイルをインсталレーションによって紹介し、民藝のひろがり、今、そしてこれからの展望します。



【左】絵巻野栗文平鉢 美濃(岐阜) 桃山時代 16-17世紀 【右】(左から)角酒瓶 小谷眞三 倉敷(岡山) 1979年、酒瓶 小谷眞三 倉敷(岡山) 1985年頃、栓付瓶 メキシコ 20世紀中頃。いずれも日本民藝館蔵 Photo: Yuki Ogawa

空想旅行案内人  
ジャン=ミッシェル・フォロン  
FOLON: Agency of Imaginary Journeys

1月11日[土]~3月23日[日]  
Jan. 11 [Sat.] - Mar. 23 [Sun.]

ジャン=ミッシェル・フォロン(1934-2005)は、ベルギーが生んだユニークなアーティストです。雑誌の表紙や挿絵で評価を得た後、ポスターや舞台美術、壁画、そして彫刻も手がけるなどマルチな活躍をみせました。詩的でユーモアに富み、やわらかな色彩と軽やかなタッチで表現されたその作品は、みる人を空想の旅へと連れ出してくれます。フォロンの没後20年を記念する本展では、多彩な作品によってそのあたたかく深遠な魅力を紹介します。



ジャン=ミッシェル・フォロン(大天使)水彩、2003年、フォロン財団蔵 ©Fondation Folon, ADAGP/Paris, 2024-2025

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
企画展示室 1・2	4/6 特別展 吉本作次 絵画の道行き		6/9	6/29 特別展 生誕130年記念 北川民次展 —メキシコから日本へ		9/8	10/5 特別展 民藝 MINGEI —美は暮らしのなかにある		12/22	1/11 特別展 空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン		3/23
常設展示室1	4/6 常設展 名品コレクション展 I ●エコール・ド・バリ: 藤田嗣治 ●メキシコ・ルネサンス: 英雄と民衆 ●現代の美術: 逸偉 桑山忠明・村上友晴	6/9	6/29 常設展 名品コレクション展 II ●エコール・ド・バリ: 画家と画商 ●メキシコ・ルネサンス: 北川民次ゆかりの画家たち ●現代の美術: 生誕100年記念 芥川(間所)紗織と1950年代	9/8	10/5 常設展 名品コレクション展 III(前期) ●エコール・ド・バリ: 東欧の作家たち ●メキシコ・ルネサンス: 交錯する視線—ポール・ストランドとM・A・ブラボ ●現代の美術: 季節のなかで—風と水と	12/22	1/11 常設展 名品コレクション展 III(後期) ●エコール・ド・バリ: 東欧の作家たち ●メキシコ・ルネサンス: ルフィエノ・タマヨ、古代と宇宙 ●現代の美術: 絵画の復権—ニューペインティングの位相	3/23				
常設展示室2	4/6 ●郷土の美術: 中村正義・平川敏夫生誕100年	6/9	6/29 ●郷土の美術: 東海の画家と春陽会・独立美術協会	9/8	10/5 ●郷土の美術: 造型写真と民家・民藝	12/22	1/11 ●郷土の美術: なごやのうつりかわり(博物館連携事業)	3/23				
常設展示室3	4/6 特別展 吉本作次 絵画の道行き	6/9	6/29 特別展 生誕130年記念 北川民次展 —メキシコから日本へ	9/8	10/5 特集 西方寺所蔵 棟方志功襖絵	12/22	1/11 博物館連携事業 なごやのうつりかわり	3/23				
講堂		6/1 教育普及事業 コレクション解析学 藤田嗣治(家族の肖像)/《ベルギーの婦人》		8/31 教育普及事業 コレクション解析学 芥川(間所)紗織(古事記より)		11/9 教育普及事業 コレクション解析学 ディエゴ・リベラ(プロレタリアの団結)						

※特別展、常設展、特集、教育普及事業の会期、名称及び内容は、都合により変更されることがありますので、ご了承ください。

特集 Special Exhibition from the Collection  
西方寺所蔵 棟方志功襖絵  
Munakata Shiko's Paintings on Sliding Screen

10月5日[土]~12月22日[日]  
Oct. 5 [Sat.] - Dec. 22 [Sun.]

棟方志功は昭和11年(1936)に柳宗悦と出会い、以降柳を生涯の師として仰ぎました。愛知県清須市西枇杷島町小田井にある西方寺には、戦後間もない昭和21年(1946)に棟方志功が描いた襖絵が残されています。これは、柳と共に民藝運動に取り組んだ水谷良一が西方寺の檀家であった縁によるものです。今回の特集では、当館寄託の西方寺襖絵を展示します。



棟方志功(五智菩薩図(部分)) 紙本着彩 昭和21年(1946) 西方寺蔵(名古屋市美術館寄託)

博物館連携事業 Learning Exhibit in collaboration with Nagoya City Museum  
なごやのうつりかわり  
The Changes of Nagoya; Citizens' Lifestyle

1月11日[土]~3月23日[日]  
Jan. 11 [Sat.] - Mar. 23 [Sun.]

リニューアル休館中の市博物館と連携し、小学校3年生社会科の単元に対応した事業を実施します。「電化前の暮らし」「電化後の暮らし」を通じて、暮らしのうつりかわりを体験できます。



電化前のくらし(2022年度会場風景)

※会期中の平日は学習展示として使用し、一般の方の観覧は土日祝のみとなります。

広告募集

①

広告募集

②

広告募集

③

広告募集

④